

世羅町立甲山中学校区 実践報告

【研究推進地域 研究主題】

地域の未来を見つめ、探究的に学習する児童生徒の育成

—経験単元の開発・実践と評価の工夫を通して—

甲山中学校区研究推進地域
研究推進リーダー 藤井 大誠

発表の流れ

1. 本校区の研究の方向性
2. 本質的な問い及び校区で育成したい資質・能力
3. ルーブリックの開発
4. 開発単元と実践事例
 - ①甲山小学校
 - ②せらひがし小学校
 - ③甲山中学校
5. 成果と課題

甲山中学校区 研究推進方針



本質的な問い「世羅をもっと**元気**にするためには？」



指導方針「信頼して、任せて、待って、支える」

教師が高めたい資質・能力

- ① 単元を構想する力
 - ・ 質の高い「問い」を設定する力
 - ・ 探究の過程を意識して指導する力
- ② 学びをファシリテートする力
 - ・ 目標を共有し、一緒に考える
 - ・ 問いかけにより思考を促す

児童生徒に育成したい資質・能力

- ① 自発性
 - 発達段階に応じた「計画シート」の作成
⇒ 学習の見通しや、臨機応変な計画変更
- ② コミュニケーション能力
 - 必然性を持たせた上での「話す場」の設定
⇒ 町内外有識者等の外部とつながる機会

単元開発と実践

- 新たな「経験単元」の開発と実践
- 校種間の実践交流や研修会の充実

資質・能力の評価

ルーブリックについての協議・改善
(イラスト入り、子どものわかる言葉)

小学校低学年

地域を知る

小学校高学年

地域に発信・提案する

中学校

自ら地域に提案・参加・貢献する

高等学校

自律的に課題を発見し、解決していく

世羅町の発展
に努める！

世羅町に
貢献する！

「持続可能な社会の形成者」として地域社会で活躍する人材の育成

「本質的な問い」の設定

本質的な問い「世羅をもっと**元気**にするためには？」

児童生徒の学習環境

①地域の実態

- ・世羅町の強み（豊かな自然，長い歴史など）
- ・世羅町の弱み（人口減少，少子高齢化など）

②教材となる豊富な地域資源

- ・道の駅せら ・観光農園
- ・大妻コタカ女史 ・今高野山 など

③地域に根差したこれまでの教育活動

- ・花いっぱい運動，クリーン大作戦
- ・せらゆめトライアル・ウィーク など

教師の願い

「児童生徒の柔軟な発想で世羅町をもっと元気にしてほしい！」



校区で育成したい資質・能力の設定



甲山中学校

主体性

思考力・表現力

貢献力



甲山小学校

表現力

主体性

自信



せらひがし小学校

表現力

主体性・協働性

自己理解

共通の課題 「主体性」 「表現力」 を基に設定

校区で育成したい資質・能力の設定

自発性

- ・自ら課題を見いだそうとする
- ・自ら学習の進捗管理をする
- ・粘り強く取り組み, やりとげる
- ・自ら学びの機会を広げ, チャレンジする



「主体性」

自主性

自立性

自発性

積極性

自律性

Pick up!

コミュニケーション能力

- ・伝える能力
- ・受け取る能力
- ・非言語コミュニケーション能力

「表現力」についての3校の課題

声の大きさ

聞く力

自己表現

リアクション

対人スキルに課題



より具体的なイメージを児童生徒と教師が共有する

ルーブリックの開発




















資質・能力		S	A	B	C
コミュニケーション能力	自発性	各班での具体的な活動内容を理解し、自ら課題を設定し、その課題を解決するための計画を立て、自ら行動できる。	各班での具体的な活動内容を理解し、自ら課題を設定し、その課題を解決するために自ら行動できる。	各班での具体的な活動内容を理解し、設定した課題に対して自分なりの考えをもって行動できる。	各班での具体的な活動内容を理解し、ようとし、設定した課題にかかわろうとしている。
	伝える力	班で取り組んでいる具体的な活動内容を、伝える相手の反応を確認しながら、適切な手段を用いて相手にわかりやすく伝えることができる。	班で取り組んでいる具体的な活動内容を適切な手段を用いて相手に分かりやすく伝えることができる。	班で取り組んでいる具体的な活動内容を適切な手段を用いて伝えることができる。	班で取り組んでいる具体的な活動内容を伝えようとしている。
	受け取る力	他班の意見を理解して共感し、その意見に対して的確なアドバイスや質問ができる。	他班の意見を理解して共感し、その意見に対して的確なアドバイスや質問を考えることができる。	他班の意見を理解し、共感することができる。	他班の意見を理解し、共感しようとしている。



どの単元でも活用できるように汎用性を高めた

全職員・児童生徒が
目指す姿を共有

せらひがし小学校 第1学年 生活科 とっておきのしゃぼんだまをつくろう！

ひはつせい					コミュニケーションのうりよく				
しゃぼんだまをつくらせてみる		とっておきのしゃぼんだまのつくりかたをかきかたをか	とっておきのしゃぼんだまのつくりかたをか	ただしゃぼんだまあそびをしている。		じぶんのかんがえをつたえたり、ともだちのかんがえをきいてくわたりしながら、あたらしいかんがえをはなしている。 	じぶんのかんがえをりゆうをつけてせつめいできる。 	じぶんのかんがえをともだちにせつめいできる。 	じぶんのかんがえをともだちにはなしていない。 
しゃぼんだまのつくりかたをきく		じょうずにできたことや、できなかったことをふりかえり、つぎのさくせんをかんがえながらあそんでいる。 	じょうずにできたことや、できなかったことをふりかえりながらあそんでいる。 	じょうずにできたことや、できなかったことをふりかえりながらあそんでない。 		ともだちのかんがえをきいて、いいところをみつけたり、じぶんとちがうところをみつけている。 	うなずいたり、へんじをしたりしながらはなしをきくことができる。 	ともだちのはなしを、ともだちのほうをむいてきくことができる。 	ともだちのはなしをきいていない、ともだちがなにをはなしたのか、わからない。 

言葉だけでなく、イラストや記号を用いて自己評価しやすいように工夫しました

発達段階を考慮したルーブリックを作成しています

実践事例① 甲山小学校 第5学年「総合的な学習の時間」

世羅町の人口を増やそうプロジェクト！

11 住み続けられるまちづくりを

【単元を貫く問い】 世羅町外の人に「世羅に住みたい・行ってみたい」と思ってもらうためにはどうすればいいだろう

課題設定

【個別の問い】
幸福度2位の世羅町が抱える課題は何だろう 等

情報収集

【個別の問い】
世羅に移住した方は、世羅のどんなことを魅力だと思っているのだろうか 等

必然性のあるコミュニケーション



グループ	伝える相手	発表方法	メンバー	
フルーツ	30代			
世羅町外の人に「世羅に住みたい・行ってみたい」と思ってもらうためには、どうすればよいのだろうか				
学習の流れ	時間	学習アイコン	内容（どんな活動をするか）	準備物
①課題の設定	1		1回目の学習の計画を立てる	
	2		質問の原稿を考えてメールを送る	Chromebook
	3		インタビュー（メール）	メモするもの
②情報の収集	4		世羅のフルーツの魅力についてインターネットで調べる	..
	5
	6
③整理・分析	7		調べたことをまとめる	Chromebook
	8		リーフレットにかく事を決める	..

児童から「役場の人に話を聞きたい」という声上がり、GTとして世羅町役場企画課の方の話を聞きました。

各グループで計画を立て、必要に応じて移住者にインタビューをする等の活動を設定し、情報を集めました。

実践事例① 甲山小学校 第5学年「総合的な学習の時間」

世羅町の人口を増やそうプロジェクト！



【単元を貫く問い】 世羅町外の人に「世羅に住みたい・行ってみたい」と思ってもらうためにはどうすればいいだろう

**整理
分析**

【個別の問い】
調べた情報を整理して、世羅で働くことの魅力をどのようにまとめたらよいだろう 等

**まとめ
表現**

【個別の問い】
みんなの発信によって、どんな効果があったかな 等



他市町の小学校の児童や役場の人にアドバイスをもらい、自分たちにはなかった視点で改善をしました。



今後、世羅町役場に協力をいただいて発信をする。発信した効果や、課題を考え次年度に活かしていく。

実践事例② せらひがし小学校 第1学年「生活科」

12 つくる責任
つかう責任



とっておきのしゃぼんだまをつくろう！

【単元を貫く問い】 とっておきのシャボン玉を作るにはどうしたらいいだろう。

課題
設定

【個別の問い】
ストローを使ってシャボン玉を作ってみよう。
等

情報
収集

【個別の問い】
自分のとっておきのシャボン玉を決めよう。
等



シャボン玉についてのアンケート(シャボン玉遊びをしたことがありますか。どんな道具を使いましたか...等。)を行ったり、どんなシャボン玉が作れるかを予想した後、ストローを使ってシャボン玉を作ったりしました。

本やインターネットでシャボン玉を作る方法について知ったり、思いが同じ人同士でグループを作ったりし、どのようにシャボン玉を作るか、どのような道具が必要か考えを交流しました。

実践事例② せらひがし小学校 第1学年「生活科」



とっておきのしゃぼんだまをつくらう！

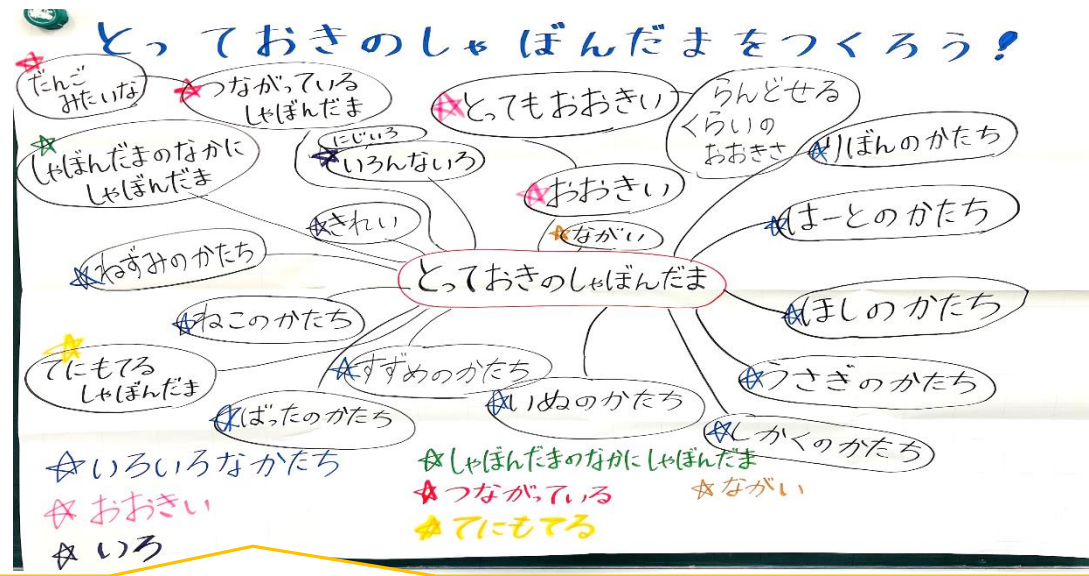
【単元を貫く問い】 とっておきのシャボン玉を作るにはどうしたらいいだろう。

**表現
実行**

【個別の問い】
とっておきのシャボン玉を作ってみよう。等

**まとめ
振り返り**

【個別の問い】
とっておきのシャボン玉を作ることができたか振り返ろう。等



評価項目	◎	○	△
準備	とっておきのしゃぼんだまの作りかたをかんがえ、とまぢのいいところをみつめて、とりいれてあそんでいる。	とっておきのしゃぼんだまの作りかたをかんがえながらあそんでいる。	ただしゃぼんだまあそびをしている。
実践	しょうずにできたことや、できなかったことをふりかえり、つぎのさくせんをかんがえながらあそんでいる。	しょうずにできたことや、できなかったことをふりかえりながらあそんでいる。	しょうずにできたことや、できなかったことをふりかえりながらあそんでない。
振り返り	ともだちのかんがえをきいて、いいところをみつけたら、じぶんたちがうところをみつけたらいい。	うなずいたり、へんじをしたりしながらはなすことができる。	ともだちのはなしを、ともだちのほうをむいてきくことができる。

児童同士で話し合い①いろいろな形グループ ②大きいシャボン玉グループ ③シャボン玉の中にシャボン玉グループ ④手に持てるシャボン玉グループの4つのグループに決まりました。

イラスト付きのルーブリックを使用することで、自分たちで振り返ることができました。

実践事例③ 甲山中学校 第1学年「総合的な学習の時間」

福祉プロジェクト～世羅町の高齢者を元気にしよう～



【単元を貫く問い】 地域の人々のために福祉の視点から自分たちができる行動は何だろう。

課題設定

【個別の問い】
世羅町が抱える問題は何だろう
高齢者にとって住みやすい町とはどういった町だろう
等

情報収集

【個別の問い】
世羅町の地域福祉の現状はどのようなものだろうか
等



メンバー (各務の順にリーダー・副リーダーを付ける)			
水定 結莉	山根 聖生	山根 真希子	高橋 真花
木定 結莉	山口 悠輝	竹原 悠希	岡本 結莉

1. 何したい (する) か
(質問はサロンで行って、みんなが楽しみ・がめようにかいがある程度)

2. 何のためにサロンで1の内容をするのか



「世羅町の高齢者のためにできること」について案を出し合い、活動方針を決定しました。

【活動方針】
世羅町の魅力をジャンル化し、ジャンルごとに高齢者の方とできる活動を考える

文献やインターネットを活用し、世羅町の福祉について情報収集を行いました。

文献調査とインターネットだけでは十分な情報が得られないという新たな課題も出てきました。

実践事例③ 甲山中学校 第1学年「総合的な学習の時間」

福祉プロジェクト～世羅町の高齢者を元気にしよう～

3 すべての人に
健康と福祉を



【単元を貫く問い】 地域の人々のために福祉の視点から自分たちができる行動は何だろう。

情報 収集

【個別の問い】

高齢者の方は普段の生活でどのような困り感をもっているのだろうか 等

「高齢者疑似体験キット」を活用し、普段体験することができない、高齢者の方の生活を疑似体験しました。



福祉体験学習の司会進行も生徒が行いました。

「普段おじいちゃんおばあちゃんと生活しているけれど、高齢者の気持ちをあまり考えたことがなかった。これからは気にしながら、寄り添っていきたいです。」といった感想が多かったです。

実践事例③ 甲山中学校 第1学年「総合的な学習の時間」

福祉プロジェクト～世羅町の高齢者を元気にしよう～



【単元を貫く問い】 地域の人々のために福祉の視点から自分たちができる行動は何だろう。

整理
分析

【個別の問い】
福祉体験学習で福祉について新たに学んだことは何だろうか
福祉体験学習で学んだことを何にどう活かしていけばよいか 等



社会福祉協議会の久保さんからビデオレターが届き、福祉体験学習で学んだことを活かして、サロン訪問をしてほしいというミッションをいただき、新たな課題設定を行いました。



6つのグループに分かれ、校区の高齢者の方が集うサロンへ訪問することが決まり、生徒は必然性を持ち、本質的な問いの解決へ向けて自主的に動くようになっていきました。

実践事例③ 甲山中学校 第1学年「総合的な学習の時間」



福祉プロジェクト～世羅町の高齢者を元気にしよう～

【単元を貫く問い】 地域の人々のために福祉の視点から自分たちができる行動は何だろう。

まとめ
表現

【個別の問い】
今まで計画してきた企画を実行するにはどうしたらいいか
サロン訪問を通して学んだことは何だろうか 等



甲山地区の愛楽サロンを訪問し、高齢者の方と交流しました。

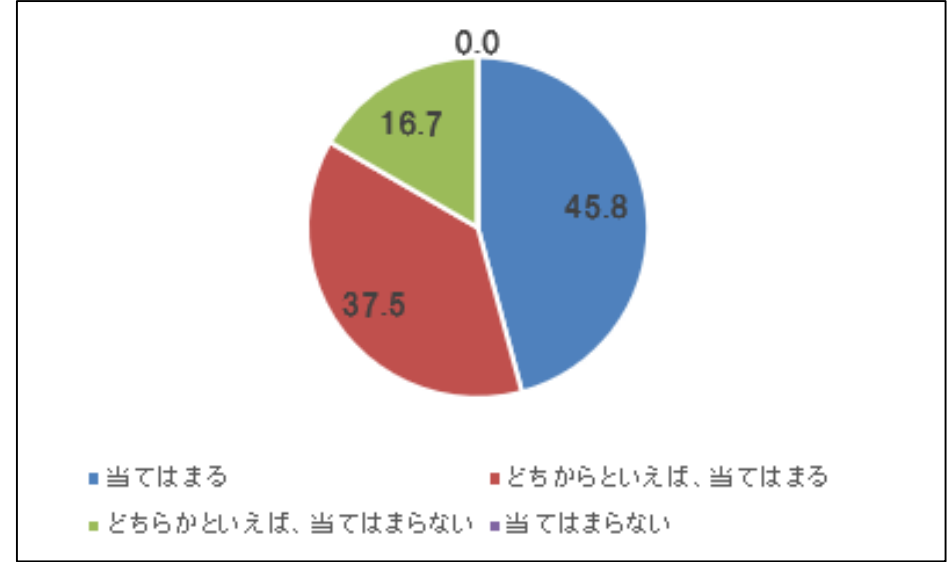


高齢者の方も中学生と交流ができ、笑顔が絶えない交流会になりました。交流会後は、本質的な問いに立ち返って、自分たちの企画を振り返りました。

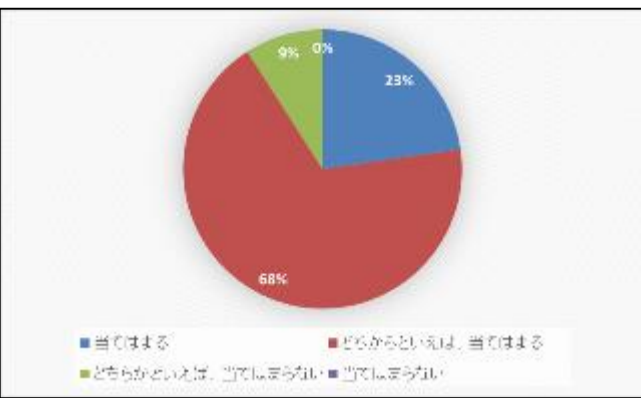
成果【教員アンケートより】

「総合的な学習の時間」及び「生活科」の授業では、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか。

※対象：甲山中学校区の総合的な学習の時間または生活科を担当している職員



令和5年1月のアンケート結果



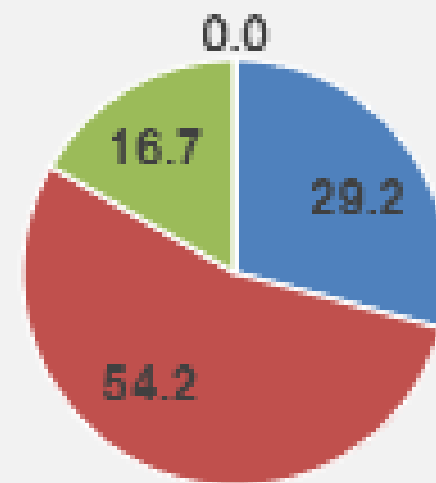
令和4年1月のアンケート結果

「あてはまる」と回答した教員の数が増えた。
探究的な学習についての理解度が深まったと考えられる。

課題【教員アンケートより】

「総合的な学習の時間」及び「生活科」の授業では、各学校で定めた資質・能力の育成を意識した指導ができましたか。

※対象：甲山中学校区の総合的な学習の時間または生活科を担当している職員



■ 当てはまる

■ どちらかといえば、当てはまる

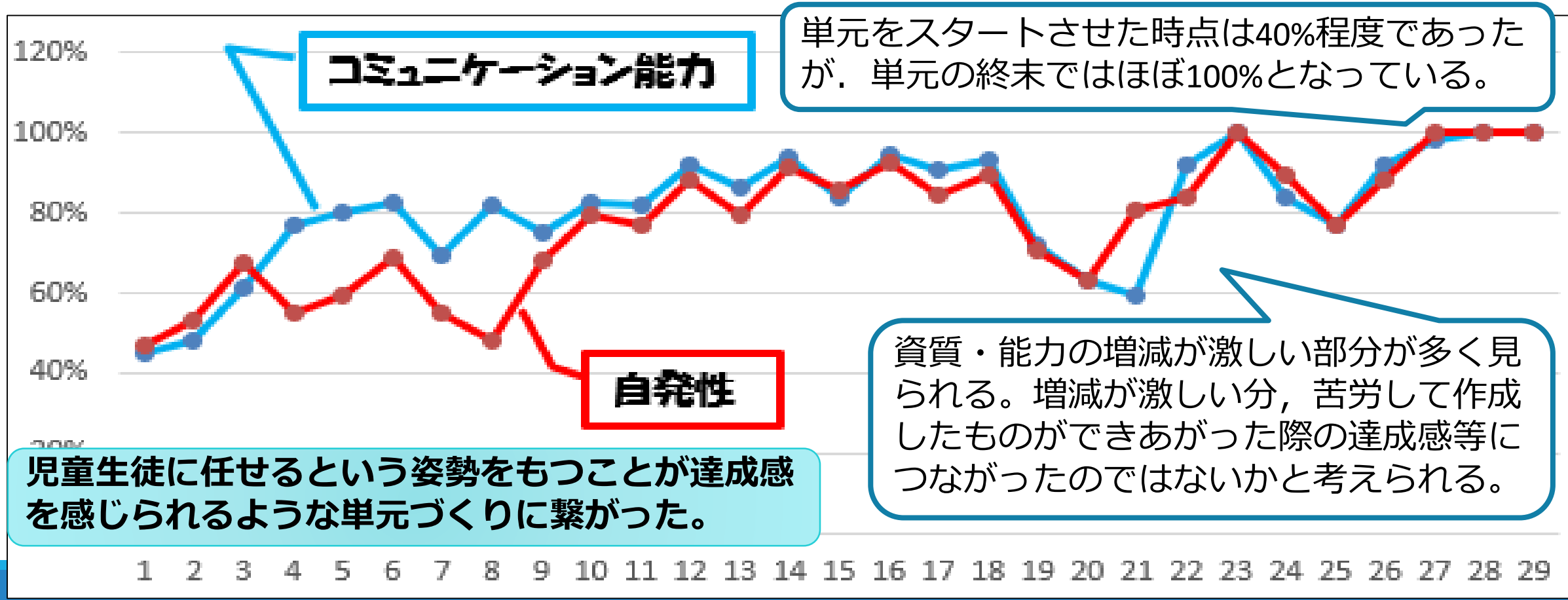
■ どちらかといえば、当てはまらない

■ 当てはまらない

肯定的評価は83.4%と高評価になっているが、「当てはまる」と自信をもって回答している教員は30%を下回っている。児童生徒から見た自身の資質・能力の高まりと教員から見た児童生徒の資質・能力の高まりに差があると感じている。資質・能力の育成を意識して指導しようと思っはいるものの、PBLを通して資質・能力が育成されたかどうか疑問が残っている。

成果【児童生徒の自己評価より】

甲山中学校 第1学年「福祉プロジェクト」自己評価表におけるS+A評価の割合



コミュニケーション能力

単元をスタートさせた時点は40%程度であったが、単元の終末ではほぼ100%となっている。

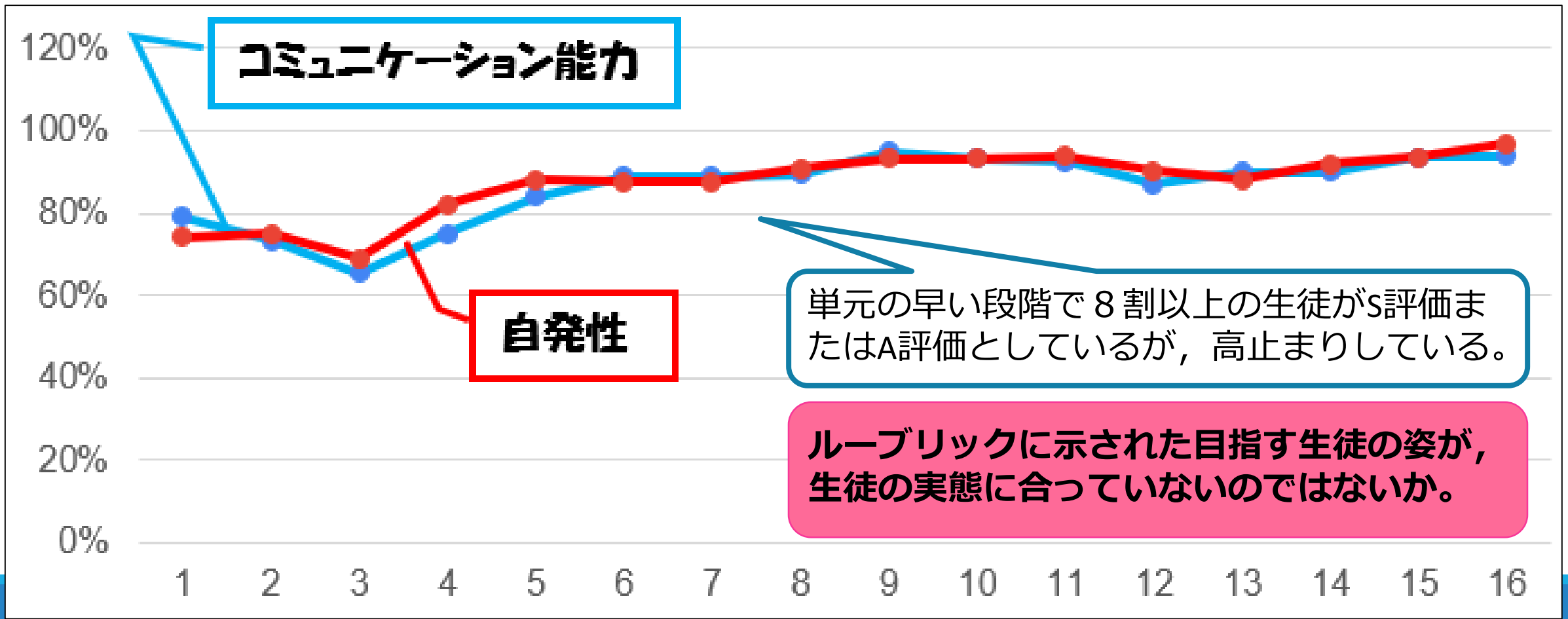
自発性

資質・能力の増減が激しい部分が多く見られる。増減が激しい分、苦勞して作成したものができあがった際の達成感等につながったのではないかと考えられる。

児童生徒に任せるといふ姿勢をもつことが達成感を感じられるような単元づくりに繋がった。

課題【児童生徒の自己評価より】

甲山中学校 第2学年「SE_LIKEプロジェクト」自己評価表におけるS+A評価の割合



コミュニケーション能力

自発性

単元の早い段階で8割以上の生徒がS評価またはA評価としているが、高止まりしている。

ルーブリックに示された目指す生徒の姿が、生徒の実態に合っていないのではないか。

次年度以降に向けて



令和3年度

- (1) 育成を目指す資質・能力の設定
- (2) P B Aによる総合的な学習の時間の単元開発
- (3) 資質・能力の評価のためのルーブリックの開発

令和4年度

- (1) 設定した資質・能力を柱とする全教育計画の見直し
- (2) 開発単元の改善, 新たな単元開発
- (3) 評価の妥当性の検証, ルーブリックの改善

令和5年度

- (1) 研究成果のまとめ, リーフレットの作成
- (2) 各教科におけるP B Lの実践
- (3) 他地域への発信・普及

重点項目①

資質・能力の育成を, 総合的な学習の時間だけではなく, 全ての教科で実践し, 思考・判断・表現力の育成へ繋げる

重点項目②

全県展開へ向けて, 全職員が探究的な学習について共通理解を深め, 実践事例をまとめる。

世羅町立甲山中学校区 実践報告

【研究推進地域 研究主題】

地域の未来を見つめ、探究的に学習する児童生徒の育成

—経験単元の開発・実践と評価の工夫を通して—

甲山中学校区研究推進地域
研究推進リーダー 藤井 大誠